

伊勢の山中さん 高校中退から学習塾経営

伊勢志摩版

（40）＝同市岩淵。経験を生かし「なぜ勉強するのか」を子どもたちに伝えている。

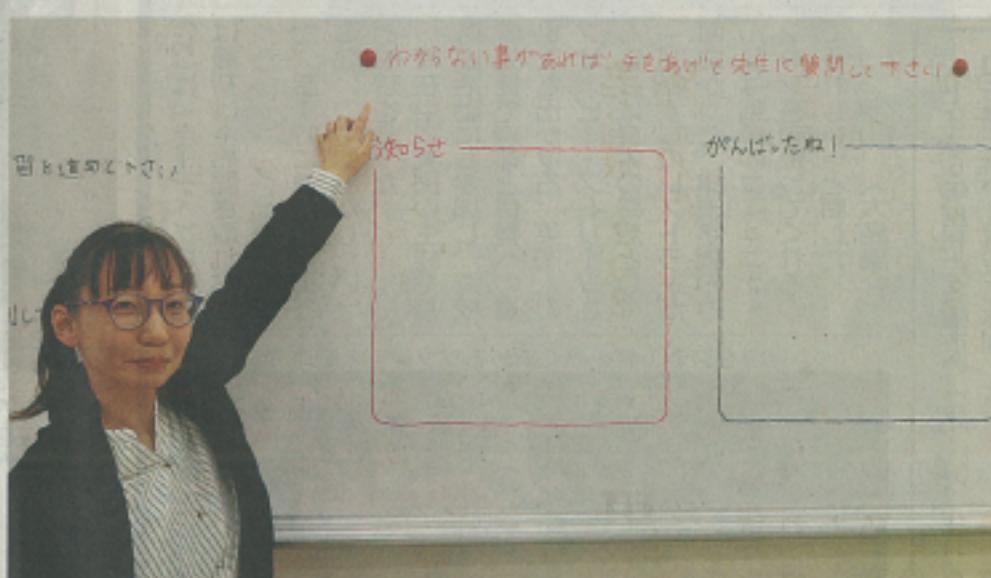
大見華蘭

ある日の夜8時半、古
ト端末を使って学習して
た。山中さんは、苦戦して
いる生徒がいか教室で
を見回る。「自分も勉強が
苦手だった。つましくボイ
ントは似ているから、理屈
できるように説明できる」
とほほ笑む。

伊勢市の小学校の3年生だったときに半年間、小児腎炎で入院。退院後の授業についていけなかつた。中学校でも、勉強が分からなかつた。高校1年の7月、「アルバイトをして、お金を稼ぐほうが良い」と考へて中退した。

転機となつたのは、30代前半でコンビニのアルバイトをしたとき。新人店員の教育係を担当し、仕事を通じて「教えるのが楽しい」と感じた。

わかるうれしさ 経験を基に指導



勉強が苦手だった自身の経験を生かし、子どもたちを指導する

「なぜ勉強するか」伝えたい

「業界でも珍しい存在

約400社が加盟する全国学習塾協会（東京）の担当者は、高校中退からオーナーとなつた山中さんについて「客観的なデータはないが、かなり珍しく本当に一握りだと想う」とみる。業界の中では、異例と三えて挑戦。後押しした明光ネットワークジャパン開発部兼RED事業本部（同）の伊東幸広課長（49）は「自身の経験から勉強する理由を伝えられるので、絶対やるべきだと思った」と意図を説明した。

皇学館大教育学部長の渡辺賢二教授（教育心理学）は、学習塾は成績を上げるためにだけでなく、子どもと社会とのつながりの場になると指摘。「中学校で不登校になつても、別のコミュニティーでつながりがあると、高校ではきちんと通えるようになる子が多い」というデータもある。そういう場がある」とは、社会的自立のために非常に重要な」と語った。

夫の伸拓さん(49)も「子どもの将来をつくる」ことができる嬉しい仕事だ」と全面的に協力。24年3月に伊勢市宮町に伊勢教室を開設させた。新たに教室長を雇い、9月には同市小木町のイオンタウン伊勢ラバーラクにも教室を増やした。

5年、外から午後9時過ぎまで小学生・高校生を指導する。現在は2歳、小学5年生、高校1年生と3人の子どもたちを育てるが、帰宅は夜遅くになり、夕食などは伸拓さんが用意する。子どもたちから「なぜ勉強するのか」と問われることもある。その理由を「成

「伊勢の伸拓さん（49歳）」子どもの将来をつくることができる誇らしい仕事だ」と全面的に協力。24年3月に伊勢市宮町に伊勢教室をオーブンさせた。新たに教室長を雇い、9月には同市小木町のイオンタウン伊勢ラバーラクにも教室を増やした。

山中さんは伊勢教室で週5日、夕方から午後9時過ぎまで小学生・高校生を指導する。現在は2歳・小学5年生、高校1年生と3人の子供たちを育てながら、帰宅は夜遅くになり、夕食などは伸拓さんが用意する。子どもたちから「なぜ勉強するのか」と問われることもある。その理由を「成績を上げるのも重要だが、やるべきことを、きちんとやることが大切。自由はその上で手にすることができる」と語る。

A group of students in the Yamada Classroom are gathered around a table, focused on a task. One student in the foreground, wearing a grey hoodie, is looking down at a red folder or book they are holding. Behind them, another student in a blue jacket and glasses is also looking at the same folder. In the background, a student in a yellow vest and mask is working on a whiteboard or paper. The classroom has yellow walls and wooden doors.